

2 事前調査の方法

2-2 既存建築物の診断方法

④付属フックの引っ掛け

保持力チェッカーを起し、チェッカーの孔に付属のフックを引っかけます。

⑤引き抜き

引っかけたフックを、パール(釘抜き)でビスを引き抜くように引っ張ります。

注意 保持力チェッカーの破片などが飛ばないように、テープなどで治具とフックを養生してください。

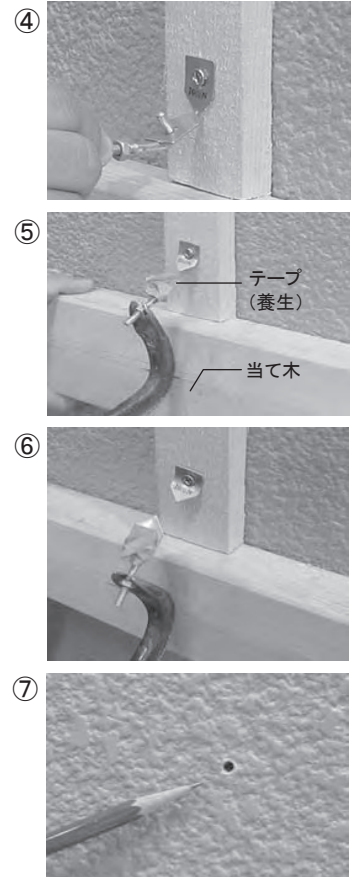
⑥判定

ビスが少しでも抜けずに、保持力チェッカーが切れれば1000N／本以上の保持力があると推定でき、合格です。

※保持力チェッカーが切れずに、ビスが抜ければ1000N／本未満で不合格です。

⑦補修

試験後のビス孔は、弾性パテ材・シーリングなどで補修します。



3) テクノテスターによるチェック試験

- 建物の土台・柱に留める場合は、保持力が1000N以上あれば合格です。
- 窯業系サイディングのみに留める場合は、保持力が305N以上あれば、合格です。
- テクノテスターの使用手順は以下の通りです。

①試験部分の位置出し

試験実施部分を確認し、印をつけます。

②ビスの施工

土台・柱に留める場合：既存壁に先穴をあけて、25mm以上入る長さの胴縁留め付けビスを留めます。

窯業系サイディングのみに留める場合：コーススレッド38mmを留めます。

ビス頭は試験機の治具が挿入できるように(約5mm)浮かします。

③試験機の操作 (サンコーテクノ社製・テクノテスターRT-2000LD(Ⅱ))

※詳細は取扱説明書をご参照ください。

- ハンドルを手前に回転させて出し切ります。
- ビス頭に適合する治具を試験機にセットします。
- ビスが垂直に引っ張られるように治具位置を調整し試験機を固定します。
- 試験機の足が浮かないようにレベルを調節します。
- 引張荷重が加わらない状態で一度リセットを行い、変位と荷重を0にします。
- ハンドルを回転(右回り)させます。回転速度は3秒間に1回転が目安です。

■最大値の見方の注意点

- 変位が1mmまでに引張荷重が最大値に達したときは、達した時の値を引張荷重の最大値とします。
- 変位が1mmを超えても引張荷重が増大していく場合は、変位が1mm時点での引張荷重を最大値とします。

④試験部位の補修・清掃

試験後のビス孔は、弾性パテ材・シーリングなどで補修します。



【推奨試験機】
サンコーテクノ株式会社
テクノテスターRT-2000LD(Ⅱ)
(日本建築工学会認定)